

2020年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業
「ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業」
全体講評

見世 千賀子
東京学芸大学
国際教育センター 准教授

今回の実証事業には、50校の在外教育施設が取り組んできました。コロナ禍で海外では、国によってロックダウンや年間を通じた学校閉鎖、渡航禁止による派遣教員の国内待機、一時帰国と現地残留児童生徒両者の学びの保障等、国内とは異なる厳しい状況や課題がありました。そのような中、各学校では、本事業のねらいである非常時においても学びを止めないために、現地の実情に応じて出来る対応を創意工夫し真摯に行ってきました。ご尽力された先生方関係者に対し、心より敬意を表します。

今後さらにICTをご活用いただくために、参考にさせていただきたい取り組みを実施した学校を8校選び、個別に講評しました。様々な学校が参考にできるように、次の2点を加味し選定しました。

1 点目は学校規模です。小規模校から大規模校まで、学校規模が異なる学校を選びました。

2 点目は、ICT教育への取り組み状況です。先進的・先駆的な取り組みを行っている学校だけではなく、環境が整っていない学校が、ICTを活用した教育体制を構築するために、どこからどのように取り組めば良いのか知る上で参考になる学校も選びました。

なお、今回選定した8校は、報告書の書き方、内容が具体的でわかりやすく、参考にしやすい点でも優れています。この点も参考にさせていただきたいと思います。

本事業の成果として、大きく次の3点があげられます。主に個別講評校の事例を基に以下に述べます。

第1に、非常時においても学びを保障できる体制の基盤が多く为学校で構築されたことです。学校全体で使用できる情報通信環境の整備、セキュリティの確保、遠隔授業に必要な機器・ソフトウェア・デジタル教材の整備によって、教育だけでなく校務の業務改善にもつながっています。また、遠隔授業へ移行する際の手順についても個別講評校の事例が参考になります。

第2に、遠隔授業に関して、極めて多様な実践が蓄積されたことです。小学部から中学部まで各学年、各教科、オンラインでは実施が難しいといわれる音楽、体育等の実技教科、道徳も含めて、オンデマンドやリアルタイムでの授業等、多数の実践事例が成果と課題と共に報告されています。ZOOMなどの遠隔会議システムを活用するにとどまらず、教育ソフトやデジタル教材、周辺機器の活用と組み合わせの工夫によって、新教育

課程に対応し、主体的対話的な授業への取り組みや、現地国にいる子供には対面、ホテル隔離中や日本に帰国している子供にはオンラインでの参加によるハイブリッド型授業も行われています。非常時だけでなく、対面での授業が行えるようになった学校でも、ICTを活用した授業は継続して探求されており、それらは、日本人学校のみならず国内の学校でも参考になる貴重な資料となっています。アンケート結果やデータをしっかり取ってそれを基に、課題を明確にし、授業改善や次の計画に役立てている点も参考になります。さらに、さまざまな行事が中止になる中で、日本人学校としての一体感を目指したオンラインミュージカル・運動会等の学校行事や、不安を解消するためのオンライン教育相談等の新しい試みもあり、子供や保護者の感想やアンケート結果からも高評価を得ています。日本人学校ならではの取り組みでもある現地校やインターナショナルスクール、他の日本人学校や日本国内の学校等との交流もオンラインでの試みが多数報告されており、英語や現地語学習、文化理解への興味関心・学習意欲の向上やグローバルな視点を養う取り組みになっています。

第3に、教師の変容、子供の変容がみられることです。学校で、ICT機器の使用経験のなかった教員も含めて、教職員が恐がらずに使ってみようという雰囲気をつくり、研修や情報共有を繰り返し行うことで、活用スキルが向上したり、自信をもってオンライン授業を実施したりできるようになったことが報告されています。イントラネットやICTを活用した教師の学びを止めない取り組み、校内研修が力量形成につながっています。また、教師の授業観、子供観の変容も見られます。子供の学習の記録を蓄積できるロイロノートを活用した取り組みによって、学級全体ではなく児童生徒一人一人の躰みや興味関心を把握しようとする姿勢への変化やICT機器や教育ソフトの活用が日本語の力が十分でない子供への指導にとっても有効であることへの気づきが見られます。「個別最適化学習」や「自ら学ぶ力を育てる」授業への転換も報告されています。こうした先生方の授業観の変容は、子供が自らの学びの軌跡を振り返り、メタ認知する能力の育成、自己評価力の育成につながっているとの報告もあります。先生方の新しい授業をデザインすることへの挑戦は、教育活動やつながりの場を広げ、新たな価値を創造しています。

最後に、この半年から1年の間に各校の取り組みには目覚ましい発展がありました。それは、各国の置かれた状況の中で、先生方のまさに血のにじむようなご努力があったからだと思います。また、本事業で尽力された3名のICT教育アドバイザーの丁寧なサポートも大きかったと考えます。本事業によって日本人学校でのICTを活用した教育体制づくりは各段に進んだと同時に、まだ緒に就いたばかりのところもあり、より良い体制・授業づくりに向けて課題も多く残されています。今後も、各学校内での計画的な取り組みと、文部科学省をはじめとする国からの継続的な支援が必要でしょう。

今回、個別に講評していない学校でも参考になる取り組みが多数あります。すべての報告書がWEBサイトで公開されていますので、ぜひお互いに参考にいただき、学び合う中で、新たなつながりを構築していただきたいと思います。